

## 現代社会とは何か—3つの現象から—

天理大学人間学部講師  
深谷 弘和 Hirokazu Fukaya

「現代社会」って、いつからですか？

筆者は、大学に入学したばかりの1年生を対象にした「現代社会と福祉」という授業を担当している。その授業では、最初に「現代社会」の特徴について説明し、学生と意見交換をおこなうが、「現代」といったとき、いつの時代を指すのだろうか。

本連載では、先進諸国が戦後、経験した高度経済成長がピークを迎え、低成長への入り口となるオイルショックがあった1970年代以降を「現代社会」と捉えておく。その上で「現代社会」がどのような社会なのかを論じていくことにする。今回は、グローバル化、リスク化、個人化という3つの現象から「現代社会とは何か」という問いに応答してみよう。

## 「グローバル化」した現代社会

交通網の発展やインターネットの普及によって、資本、情報、労働力は、国境を越えて地球規模で移動することが可能となった。いわゆる「グローバル化」である。資本や労働力が国境を越えて自由な移動が可能になると、戦後の社会福祉を支えた福祉国家体制は、大きな揺らぎを経験することになった。福祉国家とは、ナショナル・ミニマムを保障する体制、つまり、国民一人ひとりの最低限度の生活を保障する生存権を守る仕組みを医療、年金、社会福祉といった法制度により整えていく国家のことである。

グローバル化が進むと、なぜ、福祉国家が揺らぐことになるのか。グローバル化により、各企業は、海外との競争の中で、より安い賃金での労働力を求めて、海外に工場を建設したり、移転させたりする。そのことにより、国内の雇用市場は不安定なものとなる。特に日本の福祉国家は、終身雇用・年功序列の雇用慣行と、「男性は仕事、女性は家事・育児」という近代家族モデルに支えられていたため、雇用環境が不安定になると、福祉国家が揺らぎを経験するのである。男性の雇用が不安定になることで、男性が家族を扶養することを前提とした賃金体形が崩壊し、補填のため女性が働くようになると、少子高齢化の流れと合わせて、女性が担ってきた子育てや介護といったケア役割を、社会化する必要がある。結果的に、企業からの法人税、個人からの所得税といった税収のベースが不安定になると共に、社会福祉のニーズは多様化、複雑化することで、従来の福祉国家の機能は、維持が困難になってくるのである。実際に、日本の国家予算に占める社会保障費の割合は、年々高まってきている。

## 現代社会と「リスク化」

次に「リスク化」という現象をみていきたい。福祉国家において、社会福祉の対象となるのは、主に男性基幹労働者であった。障害や疾病によって失業し、貧困になる対象は、主に男性が想定されていた。しかしながら、先述したようにグローバル化により女性が社会進出することによって、女性も失業や貧困のリスクが生じることとなった。また、規制緩和が進み、非正規雇用などの不安定な雇用が増えることで、働いても働いても収入を安定させることができないワーキングプアや、競争の激しい労働環境に対応することができず、個人の経済的な自立が遅れることで、「パラサイト・シングル」と呼ばれる単身者が

出てきたり、未婚率が高まることで、福祉国家が想定していた「家族」というセーフティネットが機能しなくなってくる。さらには、リストラが進むことにより、能力主義や成果主義の風潮が強まると、職場でのストレスを背景とした自殺、各種の依存症、家庭内暴力、虐待といった新たなリスクも生じるようになる。誰しもが、「明日は我が身」で、社会福祉の対象となる時代。それがリスク化である。

また、個人の生活レベルでのリスクの高まりのみならず、工業化の進展は、地球規模での環境問題などのリスクも高めることとなった。人々の豊かな生活の代償として、森林の伐採や大気汚染、地球温暖化や海面上昇といったリスクが高まった。こうしたリスクは、国境を越えて、人々の生活に影響を与えるが、国際的な基準を整えるには、国家間の調整が必要であり、決して簡単なものではない。

## 「個人化」する現代社会

最後に「個人化」をみてみよう。戦後に整備された福祉国家体制は、生存権や教育権といった社会権を保障する仕組みづくりであった。一人ひとりの権利が保障される仕組みが整えられるようになると、皮肉なことだが、その権利が他者によって保障されているという互酬性を意識することが、かえって難しくなってしまう。「自分は税金を納めているのに、十分な保障を受けることができないのではないか」とか、「自分は懸命に働いて、納税しているにも関わらず、生活保護や年金で生活している人がいるのは、ずるい」といった利己的な考えが強まっていく。これが「個人化」と呼ばれる現象である。加えて、生活水準が高まり、教育機会が保障されるようになると、生活の豊かさは自分次第であるという意識が高まり、「生活が不安定なのは、自分の努力不足だ」という自己責任の意識も強めることとなる。個人化の進行は、「おたがいさま」の互酬性の意識を低下させ、格差が拡大し分断が強まることにもつながっている。

## 求められる新時代の社会福祉

ここまで、現代社会の特徴をグローバル化、リスク化、個人化の3つの現象から説明した。グローバル化によって、人びとの生活基盤である労働や家族のあり方が変化し、全ての人にリスクが身近なものとなり、社会福祉のニーズは多様化、複雑化している。さらに、個人化によって、互酬性や連帯意識を持つことが困難になると共に、新たな社会づくりに向けた合意形成もまた困難となっている。近年の格差や分断の背景には、福祉国家体制の成熟と、揺らぎがあることを踏まえ、新たに人々がつながり、支え合う仕組みをどのように構想すべきなのか、議論を深めていく必要がある。例えば、整備された協同組合の仕組みなどは、行政や企業に変わる社会福祉の担い手として注目されてきている。地域の社会資源を市民の手で管理し、運営する仕組みである。また、こうしたコミュニティの再生をめぐることは、宗教の新たな役割を模索しようとする実践や研究もある。目まぐるしく変化する「現代社会」の特徴を多面的に捉え、新時代の社会福祉を構想することが求められている。